

2006年度（後期） 学生による授業評価アンケート調査
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	三橋 良士明
講義番号	1820C056		担当科目名	行政作用法
開講曜日	月曜日	9・10 時限	専門科目	
授業回数	13 回	休講回数	1 回	補講回数 0 回
受講登録者数	98 人	成績評価対象者数	93 人	授業放棄者数 5 人
成績評価に際し注意した事項				
<p>成績評価は、シラバスに記載の通り、日常点（小テスト）30%、期末試験70%とした。 なお、小テストは5回実施した。期末試験は、行政法の基礎知識および法解釈能力の到達度を測る観点から出題した。</p>				
報告内容				
<p>1 授業評価アンケート結果について</p> <p>アンケート回答率は67.0%である。評価内容を満足率の高い順に並べると下記の通りである。</p> <p>授業の主題・テーマが明確である (60.9)</p> <p>シラバスの内容が反映されていた (59.4)</p> <p>学生に公平に接していた (54.7)</p> <p>教材の使い方が適切である (51.6)</p> <p>学生の質問・相談に応じる姿勢があった (50.0)</p> <p>開始・終了時刻を守ろうとしていた (50.0)</p> <p>授業を受けて知識・技術が身に付いた (46.9)</p> <p>教員の声が聞き取りやすい (45.3)</p> <p>学習の雰囲気・秩序を保とうとしていた (43.8)</p> <p>授業の難易度は妥当である (39.1)</p> <p>授業の進度が適切である (37.5)</p> <p>学生の反応を確かめながら講義していた (34.4)</p> <p>板書が読みやすい (15.6)</p>				
<p>2 講義担当者としてアンケート結果に応える</p> <p>行政作用法は、前期の行政法総論2単位を受講していることを前提とし、2年生が主たる受講者である。</p> <p>全体として、学生の満足度は、あまり高くないようであるが、このことは、講義内容の理解度と関連しているように思う。毎年、苦勞していることは、学生の到達度目標と講義水準の設定についてである。</p> <p>「授業の難易度は妥当である」が約40%であり、この点の改善をいかに図るかが課題である。また、「学生の反応を確かめながら講義していた」の数値もなお低いが、この点を改善することが、今後の課題である。</p> <p>授業では、毎回、判例資料を含む講義用レジュメを配布して、講義を進めてきたが、次年度は、配布教材に新たな工夫をして、授業改善に努めようと思う。</p>				